18．褥瘡治療における高気圧酸素療法の検討

佐藤偕男
（桶川坂田病院）

【目的】 褥瘡治療に高気圧酸素療法（以下 OHP）を併用し，その治療効果について検討した。

【方法】 ①褥瘡の状態に応じた局所療法を行っている症例に無作為に OHP を併用した。
② OHP は，第一種装置を用い100％酸素加圧（1ATA）下で１日１回60分で10回施行した。
③ OHP 前と OHP 後の褥瘡の局所的，肉眼的所見およびポラロイドカメラによる大きさや，肉芽形成の程度や色調の変化等の比較によって，効果判定を行った。
④ OHP 併用例のうち，有効例と無効例についてその基礎疾患，褥瘡の状態，背景因子等を retrospective に分析した。

【結果】 ① OHP は，とくに肉芽形成の促進に有効であった。② OHP の有効例は，イ）褥瘡の局所的所見としては，壊死組織がなく，ポケット形成がなく，局所感染が軽度であった。ロ）年令が比較的若年で50～60歳代であった。ハ）貧血や DM 等がなく，栄養状態も比較的良好であった。ニ）しかも意志疎通が可能で知覚障害も軽度であった。③ OHP の無効例は，イ）褥瘡の局所的所見としては感染が重症で，壊死組織が存在したり，ポケット形成等を認めた。さらに，便失禁のために局所が汚染されやすい状態であった。ロ）全身的には低栄養状態（低アルブミン血症）のために全身の浮腫を認めた。ハ）基礎疾患としては，脳卒中による遷延性意識障害，いわゆる「植物状態」であった。

【まとめ】 OHP の併用療法は，褥瘡治療において，万能ではなく，局所所見，全身状態（背景因子）を考慮し，症例を選ぶ必要がある。しかも，OHP は肉芽形成促進のためのひとつの補助的手段として位置づける必要がある。

19．自衛隊大湊病院における高気圧酸素治療装置の活用状況について

斎藤徹也　佐藤則一　横山　富　中村トマ子
田口　順　妹尾正夫　渡邉千之
（自衛隊大湊病院高気圧酸素治療室）

自衛隊大湊病院では，第２種高気圧酸素治療装置が装備され，一般治療を始め潜水病治療や各種訓練等に広く活用しているので，地域特性を含め使用状況について報告する。

装置は中村鉄工所製 NHC-408-A 型（横型円筒二室式，最高治療圧力 5kg/cm^2，内径2.8m，全長6.1m，収容人員８名）で，室員３名（衛生員１名，運用員２名）で，平成５年９月より稼動を開始した。

治療面においては，青森県下及び近郊に第２種高気圧酸素治療装置を設置しているのは当院のみであり，部外依頼治療も実施している。本学会の救急的適応疾患である潜水病，一酸化炭素中毒，イレウス，凍傷や非救急的適応疾患の突発性難聴の他，奏功機序から効果が期待される疾患にも治療を試み，多くの疾患に良好な効果を得ている。

また，潜水艦乗員及び潜水各課程への学生選抜における耐圧検査，大湊所属の潜水員による施設利用訓練，近郊消防署員への体験訓練等も行って潜水部隊及び部外機関への支援も行っている。

平成９年６月までの３年10ヵ月の使用実績は一般症例66例（延1116人）潜水病３例（延23人），耐圧検査14回（延36人），施設利用訓練11回（延207人）であった。

使用実績としてはまだ少ないものの，函館からの潜水病患者も受診するなどの実績もあり，今後とも地域医療機関及び関連機関と連携して，高気圧酸素治療装置の活用の場を増やしていきたいと考えている。